

第1期中期目標期間における公立大学法人横浜市立大学の業務実績に対する各委員評価一覧

年度計画(項目)	自己評価	委員評価	コメント
第3 大学の運営に関する目標を達成するための取組	B	B	
		B	
		B	
		B	
		B	
1 教育の成果に関する目標を達成するための取組	B	B	<p>1 従前の理学・商学・国際文化の3学部を統合し新たな理念に基づき設置した国際総合学部の目標達成にさまざまな努力を重ねるとともに、その方向性をさらに明確にすべく3学系7コース4学系12コースへの再編を決定するに至ったことを評価し、同じく再編された大学院との緊密な連携のもとに本学教育のいっそうの充実を期待する。</p> <p>2 大学院の国際総合学研究科を都市社会文化研究科等の3研究科に再編したことは社会環境の変化に柔軟に対応しつつ、より新領域的な専門性を持つ実践教育を目指すものであり、今後の充実を期待したい。また医学研究科に看護学専攻を設置し高度看護人材の育成に努めている。</p> <p>3 6年間で入学定員を医学科で30人、看護学科で10人それぞれ増員するとともに教育の質の維持に努力していることを評価する。</p>
		B	<p>学部教育・大学院教育ともに、コースの再編・研究科の再編が行われ、教育・研究の方向性が整理されてきた。今後は軌道に乗せていくことと、目標を達せられなかった課題の解決に、力を注ぐことが必要である。</p>
		B	<p>1. 概ね順調に実施したと評価する。 2. 課題 (1) 生命科学分野の再編が第1期中期目標期間中に実現できなかったこと。 (2) 医療国家試験の合格率が低下傾向にあること。(平成20年 96.9%、平成21年 95.0%、平成22年92.2%)</p>
		B	<p>大学院の再編を行ったこと、研究院を学術院としたことなど改革が進められているが、第2期においても継続して改善の方向が望まれる。</p>
		B	<p>国際総合科学部と医学部の2学部に再編しスタートしたが、その後さらに国際総合科学部を大学院教育との一貫性を高めるため再編し、教育研究の方向性が明確化された。第2期でその成果を期待したい。 一方本学の有力分野である生命科学分野の再編は遺憾ながら第2期にずれ込み、今後早急な対応を期待する。 医学部については社会問題化している医師不足に積極的に対応し、入学定員を30名増員するとともに教育の質に配慮し、適切な教育体制の整備にも努めるなど一連の対応を評価したい。</p>

年度計画(項目)	自己評価	委員評価	コメント
2 教育内容等に関する目標を達成するための取組	B	B	<p>1 全学部共通にそれぞれの専門教育も基礎となる「共通教養」教育を整備するとともに、特に語学教育において英語によるコミュニケーション能力の向上を目指すプラクティカルイングリッシュ教育の充実に努めている。</p> <p>2 国際総合学部のコース再編に関連したとはいえ第1期間を通じて懸案とされてきたGPA制度の本格実施が平成24年度に先送りされたことは残念である。学位の質の保証の一環として早期実現を期待したい。</p> <p>3 本学にふさわしい学生を確保するため、アドミッションズセンターの設置をはじめ広報を含む入学試験の改善充実が図られている。さらに入試全体についてのより戦略的取組みの推進を期待したい。</p> <p>4 研究院の目的、役割等を見直し、23年度から学術院として再スタートすることになったが、特に学部横断的な教育体制の確立、コース再編等による教育面でのこの組織のさらなる機能発揮を期待したい。</p> <p>5 医学部における少人数教育の充実、FDでの積極的取組みを評価する。</p>
		B	<p>学部のコース・研究科の再編や、研究院から学術院という組織の変更など、すべての歯車がうまく噛み合っており、教育・研究が順調に遂行されることを期待する。</p>
		B	<p>1. 概ね順調に実施したと評価する。</p> <p>2. 課題 (1) 「研究院」は計画で謳ったように機能しなかった～「学術院」として第2期で機能させる。 (2) GPA制度を第1期期間中に導入できず、第2期に先送りされた。</p> <p>3. その他 平成19年度に医学研究科博士課程において「学位審査に関する謝礼授受」の問題が発覚したことは、コンプライアンスの欠除と言わざるを得ない。 (※1)</p>
		B	
		B	<p>アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーの確立により教育の方向性が明確化された、またファカルティディベロップメントを実施することなど教育内容の充実に成果がみられ評価したい。</p> <p>一方領域横断的な研究分野への対応などを目指して設置した「研究院」は一定の成果を収めながらも期待通りの機能が発揮されず「学術院」と名称を改め再スタートとなった、運営の難しさが改めて浮き彫りとなり遺憾であるが、今後理事長・学長のリーダーシップの下機能が一段と強化されることを期待したい。</p>
3 学生の支援に関する目標を達成するための取組	A	A	<p>1 大学運営のあらゆる側面を通じ「学生中心」という基本方針が着実に反映され、キャンパスアメニティの向上、授業料減免制度の改善等を含めキャンパスライフ全体の改善に向けさまざまな取組みが進められていることを評価する。</p> <p>2 教育方針の基本となるアドミッションポリシー、カリキュラムポリシー及びディプロマポリシーが明示された。今後の不断の見直しを通じそれらの総合的な整備・改善をさらに進むことを期待する。</p> <p>3 在学全期間にわたるキャリア教育をさらに充実し、就職支援に留まらず学生の的確なキャリア形成により積極的に取組むことを期待する。</p>
		A	<p>学生支援には学生の声を聞くことが必要であるが、これに立脚して、経済支援・教育環境の整備・キャリア支援・学生自治団との情報交換などを実現させていることは、学生の満足度の向上に繋がるものと思われる。</p>
		A	<p>1. 順調に実施したと評価する。 2. 平成22年度評価はBとしたが、第1期期間全体としては、A評価としたい。</p>
		A	<p>「学生中心」の基本方針に沿っている。特に今後キャリア支援と勉学とを両立させる工夫が必要である。</p>
		A	<p>「学生中心」の基本方針にもとづき、キャンパス整備、経済的支援、広報活動の充実など学習環境の改善に積極的に取り組み、また学生アンケートなど学生の声を大学運営に反映する努力や学生向けポータルシステムの構築、独自の奨学金制度の設置など各般にわたる実績を挙げたことを高く評価したい。</p>

年度計画(項目)	自己評価	委員評価	コメント
4 研究に関する目標を達成するための取組	B	B	<p>1 研究戦略プロジェクトのスキームを見直しつ学際的研究ユニットの構築を推進するとともに外部研究費の積極的獲得に努め、また研究者データベースの整備等研究成果の積極的情報公開に努めている。</p> <p>2 先端医科学研究センターを設置し、医系・理系の連携により臨床応用につながる先端的医療開発を進めるとともに、同センターを中心に国の大型研究費(10年間総額50億円)を獲得したことを評価する。今後の成果を期待したい。</p> <p>3 生命科学分野の再編が第1期間中に実現しなかったことは遺憾である。大学院研究科のあり方を含め大学全体として生命科学分野の研究を総合的に推進し国際的な競争力を強化していくための具体的方向性及び今後の計画を明確にされたい。</p>
		A	外部資金の獲得総額も約27億円、内部研究費も領域横断的ユニットによる研究を開始するなど、研究に対する精力的な取り組みが展開されている。
		B	<p>1. 概ね順調に実施したと評価する。</p> <p>2. 課題 研究院について、その目的や役割を見直し、平成23年度から学術院として再スタートすることになった。</p> <p>3. その他 平成20年度に奨学寄附金に関する不適切な会計処理の問題が発覚したことは、コンプライアンスの欠除と言わざるを得ない。(※2)</p>
		B	
		B	学際的研究ユニットの構築を推進するとともに研究成果に関する情報公開を進め外部研究費の獲得に成果をあげた、また先端医科学研究センターを拠点とする研究が評価され、事業継続が決定し、補助金が増額されたことなど評価したい。しかし一方で奨学寄附金に関する不適切な会計処理の問題が発覚し、研究体制に汚点を残すこととなり、今後のチェック体制、管理の徹底を強く望みたい。
第4 地域貢献に関する目標を達成するための取組	A	B	<p>1 地域貢献センターを設置し、市民を対象とする各種の生涯学習講座を積極的に開催するとともに、市の政策との連携活動を進めている。また産業界等との連携により研究成果や知的財産の社会への還元を目指すなど、地域社会への貢献に積極的に取り組んでいる。</p> <p>2 地域医療機関との連携強化や役割分担の明確化に努め、また地域の医療機関への良質な人材派遣に努めている。</p>
		A	地域貢献に対する各種の取り組みが成果を上げ、新聞紙上でのランキングが急上昇した。
		A	<p>1. 順調に実施したと評価する。</p> <p>2. その他 「中間評価」ではやや遅れている。であったが、平成21年4月「地域貢献センター」を設置し、都市政策部門、生学学習部門の2部門を設け、それぞれ、積極的な地域貢献活動を推進してきたこと。さらに、新聞社の「大学の地域貢献ランキング」で全国2位にランクされたこと及び医療分野でも、地域医療貢献推進委員会を設置し、地域医療の向上に貢献したことも大いに評価できる。</p>
		A	外部機関による評価も高く、これは大学の基本方針に沿っており特筆できる。
		A	基本方針の一つの柱である地域貢献については地域貢献センターの設置を機に市の都市政策への提言や各審議会等への参加、生涯学習講座の充実が一段と進み大きな成果が認められ高く評価したい。また医療分野においても地域医療貢献推進委員会を中心に地域医療機関との提携を広げ医師の派遣を行うなど地域医療の向上に大きく貢献した。

年度計画(項目)	自己評価	委員評価	コメント
第5 国際化に関する目標を達成するための取組	B	B	<p>1 平成21年度に国際化戦略であるミッションステートメントを策定し、国際化のビジョンと戦略課題を明示するとともにアカデミックコンソーシアムを立ち上げるなどその具体化に着手していることは評価するが、ここに掲げられている課題は極めて多岐にわたっており、今後その絞込みや推進方法等についてさらなる工夫を期待したい。</p> <p>2 学位の質の確保に留意しつつ、留学生・海外派遣学生の計画的増加に向けての環境整備をさらに積極的に推進されたい。</p> <p>3 外国人教員の積極的採用や英語による授業の増加を進め、学生が英語を作業言語として使いこなせる能力をさらに高められるよう引き続き努められたい。</p>
		B	<p>法人全体の国際化戦略も今後その成果が期待され、学生の送り出しも交換留学に発展したもの、協定締結大学への留学生の増加等も見られるが、一層の努力が必要と思われる。</p>
		B	<p>1. 概ね順調に実施したと評価する。</p> <p>2. 課題 留学生受入については、低迷していると言わざるを得ない。受入数増加に向けてさらなる努力が必要。</p> <p>3. その他 国際推進センターを設置し、「国際化に関するミッション・ステートメント」を策定等国際化に関する目標は上記2を除き順調である。</p>
		B	<p>横浜市の大学らしい大学にするために、国際性の更なる向上に向けさまざまな方策が行われている。</p>
		B	<p>国際港都横浜の大学として国際化は重要な戦略目標であるが、前半やや出遅れた感は否めなかった、その後ミッションステートメントが策定され国際化の方向性が明確化されたことにより、各般にわたり具体的な進展がみられ一定の成果を挙げたと評価する。今後第2期中期計画のj中で更に一段と国際化への取組が進むことを強く望みたい。</p>
第6 附属病院に関する目標を達成するための取組	B	B	
		B	
		B	
		B	
		B	

年度計画(項目)	自己評価	委員評価	コメント
1 安全な医療の提供のための取組	B	B	1 医療安全文化の醸成、安全管理環境の整備に努め、インシデントへの対応を含めリスクの事前予知・回避システムの充実への各種の取組みが着実に重ねられている。 2 災害時医療体制の充実に努め、センター病院は東日本大震災に際し災害派遣医療チームの派遣等積極的な取組みを進めた。
		B	医療事故は減少しても、あってはならないことを目指して欲しい。
		B	1. 概ね順調に実施したと評価する。
		B	
		B	医療安全研修会の開催、インシデント報告システム導入など医療安全文化の醸成、充実に努力されているが、平成21年度一括公表の対象となる医療事故が過去5年で最多となり、極めて遺憾な深刻な事態を招いた。これを機により安全安心医療の実現に向け努力され、RCA分析の実施、コンフリクトマネジメント研修など各種対策により改善が進み成果を挙げたことを評価したい。
2 健全な病院経営の確立のための取組	B	B	1 自主的自立的な経営基盤の確立を目指し、病院長権限の強化、職員の意識改革への各種の取組みなどが積極的に進められている。 2 診療報酬の改定という外的要因の影響も少なくないものの両病院の特性を生かしつつ医業収益の増収が進み、健全な病院経営に大きく寄与している。 3 医学部看護学科卒業生の附属2病院への就職率が改善しつつあることは評価するが、今後とも必要看護師の確保に努められたい。 4 附属2病院の病床利用率及び医薬材料費比率が中期計画の目標に達しなかったは残念である。後発医療品の利用促進、価格交渉の強化と在庫の適正化など一段の努力を期待したい。
		A	大幅な医業収益の増収等により、人件費比率の適正化を実現できた。
		B	1. 概ね順調に実施したと評価する。 2. 課題 附属2病院の医薬材料比率が、中期計画における目標に達しなかった。
		B	
		B	財政基盤の強化のため患者数の増加、医療単価の向上とともに人件費・医療材料費の効率化、適正化、その他諸経費の圧縮に努め、期間中に診療報酬の改定もあり医療収益は計画を大きく上回る増収となり、運営交付金の削減を達成し健全な病院経営に大きく寄与したことを評価したい。 今後も継続的に人件費・物件費の効率化、適正化に努め、より健全な病院経営を目指して欲しい。

年度計画(項目)	自己評価	委員評価	コメント
3 患者本位の医療サービスの向上と地域医療への貢献のための取組	B	B	1 ワンストップサービスのための総合相談窓口の設置、診療・会計待ち時間の短縮などの努力が重ねられている。 2 地域医療機関との連携の強化や役割分担の明確化に努め、紹介率・逆紹介率の目標を達成している。
		A	
		A	1. 順調に実施したと評価する。
		A	医療連携の強化、紹介率逆紹介率の向上、待ち時間の短縮など着実に改善が進んでいる。
		B	
4 高度・先進医療の推進に関する目標を実現するための取組	B	B	1 大学病院の特性を生かした高度医療の専門外来を開設するとともに、厚労省の定める先進医療の申請・承認を継続的に進めている。 2 附属病院の「地域がん診療連携拠点病院」の指定、センター病院の「地域医療支援病院」の承認など附属2病院の特性や位置づけの明確化に努めている。
		B	
		B	1. 概ね順調に実施したと評価する。
		B	
		B	大学の附属病院として、また地域中核医療機関として期待されている高度・先進医療の推進に積極的に取り組み、難病医療に対する高度医療の専門外来の設置やトランスレーショナル・リサーチを推進するほか、再生細胞治療室の開設など、その成果を評価したい。
5 良質な医療人の育成に関する目標を実現するための取組	B	B	1 「市大病院学会」活動の充実等を通じ、職種を越えた医療人相互の連携、情報提供、地域医療従事者の研修、地域医療機関との連携を進めている。 2 シニアレジデントの育成強化、研修医の研修体制の充実、病院実習の受入れ体制の整備を進めている。 3 非常勤診療医採用枠の創設(附属病院)、夜間保育の充実(センター病院)等を通じて特に女性医師の支援充実に努めていることを評価する。
		B	女性医師の就労支援を積極的に行った。
		B	1. 概ね順調に実施したと評価する。 2. 課題 (1) センター病院の医師による麻薬の不正使用は、良質な医療人の育成に疑問を持たせる。(※3) (2) また、同時に法人の運営として、在庫品管理の重要性も指摘される。
		A	働きやすい環境の整備が進み、医師の研修体制も整えられている。
		B	

年度計画(項目)	自己評価	委員評価	コメント
第7 法人の経営に関する目標を達成するための取組	B	C	
		B	
		C	
		B	
		B	
1 経営内容の改善に関する目標を達成するための取組	B	B	1 附属2病院の経営の効率化、外部資金の獲得とともに財務状況の的確な把握・分析に努め、運営費交付金の計画的削減を達成した。 2 特に科学技術振興調整費をはじめ各種寄付金、公開講座収入等多様な外部資金獲得への努力を重ねている。
		B	自己収入の増加・経費の抑制・施設設備の活用など、経営改善に向けた努力が行われた。
		B	1. 概ね順調に実施したと評価する。 2. 課題 大学の人件費比率が第1期中期計画の目標を達成出来なかった。
		B	
		B	財政基盤の強化、経営の効率化のため医療収益の拡大や学費の改定、外部研究費の拡充などに努めるとともに経費の節減に積極的に取り組み一定の成果を挙げたことを評価する。 また財務分析、予算統制など経営管理の改善に努め、運営交付金の削減や施設整備の拡充など経営内容の改善が進んだことを評価したい。

年度計画(項目)	自己評価	委員評価	コメント
2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための取組	C	C	<p>1 組織の効率的・機動的な運営を目指し、理事長のリーダーシップのもと全学的な経営戦略の確立、月次決算の精緻化、経営方針会議における経営判断の迅速化等に努めている。</p> <p>2 監事等による監査連絡調整会議が開催されるなど、内部監査体制の充実が進められている。</p> <p>3 第1期中期期間中に各種の不祥事が相次いだことは極めて遺憾である。ガバナンス機能の強化、コンプライアンスの推進に向け、第2期計画に基づきこれまで以上にその実現への積極的取組みを期待したい。</p> <p>4 年度当初の明確な見通しのもとに収支・資金計画、人員配置計画等を立案しその確実な実施に努めるとともに、状況の的確なフォローアップに基づく速やかな対応を進められたい。</p> <p>5 教員評価制度、年俸制、多様な雇用形態による人材の活用など新たな人事制度の構築が進められているが、第1期期間中を通じ幾度か指摘した教員のテニユアやサバティカル制度の検討が進まず、職員についても給与制度の見直し・改正が行われていないなど、教職員のモチベーション向上と深く係わる課題の具体化が進んでいないことは大変残念である。人事管理の基本となるこれらの制度の重要性を踏まえ、その整備に向けてさらなる積極的な取組みを期待したい。</p> <p>C 不祥事が続発していることを大学(特に医学部・医学研究科)は真摯に受け止め、市民の信頼回復に真剣に努めるべきである。学生にとって、「学びたい大学」という魅力と信頼感が持てるような体質を築いて欲しい。</p> <p>C 1. 順調に実施したとは言えない。 2. 重要な課題 第1期中期目標・計画期間中に発生した数々の不祥事(①医学研究科の学位授与に伴う謝礼金授受の問題(※1) ②奨学寄附金の会計上の不適切な執行(※2) ③センター病院の医師による麻薬の不正使用(※3) ④医学部における教授の学生への暴力事件等)は、大学のガバナンス及びコンプライアンスの欠除と言わざるを得ない。</p> <p>C この6年間に、他の大学院ではみられないような不祥事が複数同時発生したことは、大学および附属病院におけるコンプライアンスの遵守についての意識改革が遅れていることを示している。</p> <p>C 運営体制のより機動的な柔軟なマネジメントを目指し経営方針会議等の設置のほか、ミーティングの開催などにより機能強化を図った。また人事制度についても様々な制度を導入し、人材の育成強化と組織の活性化に努めた。さらに内部監査も監査連絡調整会議を開催するなど強化し、それぞれに一定の成果は認められた。 しかし計画期間内に学位授与に伴う謝礼金問題、奨学寄附金の会計上の不適切執行、医師による麻薬の不正使用、教授による学生への暴力事件等々、極めて異例な不祥事件が相次ぎ、大学への信頼を著しく失墜させたことは極めて遺憾なことであり、このことを大学運営の根幹にかかわる深刻な事態と受け止め、第2期中期計画の最優先課題として取り組んで欲しい。</p>
3 広報の充実に関する目標を達成するための取組	B	B	<p>大学広報に学生の視点を活かした取組みを強化するとともに、各種広報媒体・情報発信体制の充実に努めている。</p> <p>B</p> <p>B 1. 概ね順調に実施したと評価する。</p> <p>B</p> <p>B</p>

年度計画(項目)	自己 評価	委員 評価	コメント
第8 自己点検・評価、認証評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標を達成するための取組	B	B	自己点検評価は計画どおり概ね順調に進められている。なおそこで明らかになった課題や本委員会での指摘事項について、時として具体的取組みが必ずしも明確でないこともあることは残念である。 第1期計画に対しやや進捗の遅れているもの、あるいは先送りとなった課題もあり、第2期期間では進捗管理をさらに徹底し、トップの強いリーダーシップのもとそれらの課題解決を進められたい。
		B	認証評価の結果、課題の改善に向けて取り組み、すでに適正化されている事項も多々あるので評価できるが、できるだけ速やかに指摘事項を改善することが望まれる。
		B	1. 概ね順調に実施したと評価する。
		B	
		B	中期計画の達成に向け、毎年度計画に則り、自己点検を重ね、評価結果を大学運営、教育・研究の改善、充実に反映される体制が徐々に整い、機能しつつあるが、当委員会では指摘した事項について一部十分な対応がなされないまま進展の遅れたものも見受けられた。第2期中期計画での進捗管理の強化と一層の実現努力を期待したい。
第9 その他業務運営に関する重要目標を達成するための取組	B	B	
		B	
		B	1. 概ね順調に実施したと評価する。
		B	
		B	

年度計画(項目)	自己 評価	委員 評価	コメント
1 安全管理に関する目標を達成するための取組	B	B	1地域の防災拠点としての機能を充実させるとともに、大学構成員の安全確保等、計画どおり概ね順調に進められている。 2教員による学生へのハラスメントが発生したことは極めて遺憾である。大学構成員への意識啓発をさらに徹底されたい。
		B	防災メールを使用した安否確認訓練、地震を想定した実働訓練を実施していたことは、評価できる。
		B	1. 概ね順調に実施したと評価する。
		B	
		B	
2 情報公開の推進に関する目標を達成するための取組	B	B	情報公開は計画どおり概ね順調に進められているが、個人情報漏えい事故を踏まえ、教職員の個人情報に関するさらなる意識向上を図ることはもとより、勤務環境の改善等を含め法人としての総合的な個人情報の適正管理体制徹底への取組みを期待したい。
		B	
		B	
		B	
		B	

年度計画(項目)	自己評価	委員評価	コメント
VIII 予算、収支計画及び資金計画			<p>1 収支予算実績において、外部研究費獲得等により受託研究収入等の大幅増額を見たこと、また、長期借入金によるとはいえ、医療情報システムの整備が図られた。</p> <p>2 収支計画において、両病院とも受入れ患者数の増に伴う若干の診療経費の増額をみたものの、それぞれの病院の特性を生かしつつ、診療報酬の改定に積極的に対応した施設基準の取得、高度医療の提供、手術件数の増加等の努力により病院収益が大幅に増加した。</p> <p>3 運営交付金の計画的削減、退職給付引当金の計上に伴う臨時損失の増加等のマイナス要因を抱えつつも、主として病院収益の大幅増収により、結果的には多額の純利益(64億円)の計上となったことは、経営上の努力として一面において評価すべきことであるが、同時に、教育研究、診療活動の不断のさらなる充実発展を本来の目的とする公立大学法人経営の理念との整合性にお留意すべき部分があると考え。</p> <hr/> <p>1. 「予算」～中期計画に対して、実績で収入では①運営交付金を減少させた。②附属病院収入を大幅に増加させた。③受託研究収入等を増加させた。支出では①一般管理費を減少させた。②しかし、人件費は増加した。→結果として、予算より実績が上回り良好である。</p> <p>2. 「収支計画」～中期計画に対して、実績で純利益を大幅に増加させた。</p> <p>3. 「資金計画」～中期計画に対して、資金収入を増加させ、それに伴い、支出も活発に行うことができた。 -1～3を総合して、順調に結果を出せたと評価します。-</p> <hr/> <p>予算については、当初中期計画に織り込まれていなかった診療報酬の改定という外的な要因に加えて患者数の増加、手術件数の増加、診療単価の向上など附属2病院の経営努力もあり、計画を大幅に上回る増収となった。また外部研究費の獲得にも努力され、受託研究収入等も計画を大幅に上回る成果を挙げた。一方支出、特に一般管理費について各般にわたり経費管理の徹底により節減の努力をされ、計画を大幅に下回る結果となり、全体として財政状況は大幅に改善された。この結果、運営交付金の圧縮を計画を上回って行い、また老朽化し緊急性の高い施設整備にも積極的に取り組み、経営内容の改善に努められたことは率直に評価したい。</p> <p>これらの要因により収支計画でも経常収益が当初計画を大幅に上回り、従来、未計上の退職給付引当金を臨時損失として計上し、なお純利益は計画を大幅に上回り、多額の余剰金を生む成果を挙げた、このことも評価できる。</p> <p>計画期間中に予算統制など計数管理が精緻化し、徐々に経営の中に浸透しつつあることが窺われたが、このように大幅に余剰金が生じ、しかも計画外の外的要因が絡んでいる場合、要因分析をもう少し、精緻に行い、運営交付金のさらなる圧縮に回すなど市との間で明確なルールを作るべきではないか。</p>

■備考(総合的な評価コメント等はこちらにご記入ください。)

<p>③項目別評価についての重要な特記事項 「法人全体のガバナンス体制」が十分に機能しておらず、個別発生不祥事の「コンプライアンス」も、その遵守が不十分。 (平成19年度より平成22年度(及び平成23年度)まで、毎年、重大な不祥事が発生している。) -公立大学 横浜市立大学の信用を著しく失墜させる行為が生じている-</p> <p>横浜市立大学の「教育重視・学生中心・地域貢献」の基本方針に従って、6年間努力してきた成果が見られる。特に、学生支援と地域貢献に関しては実績が上がってきている。一部の教職員による不祥事は、大学の評価を著しく低下させることにつながりかねず、今後の対策が必要である。病院運営に関しては、随所に努力のあとがあり、今後とも更なる改善を期待したい。横浜市立大学の長所を伸ばすとともに、生命科学・医学研究における力が更に発揮されることを期待する。</p>
